

配水減圧弁の水圧データ提供等業務 審査講評

1. 事業の概要

(1) 業務名称 配水減圧弁の水圧データ提供等業務

(2) 業務目的

本業務は、現在、市が実施している減圧弁の水圧データ管理業務において、業務受託者（以下「事業者」という。）が、記録計室等に必要の水圧測定機器（以下「機器」という。）を設置し、減圧弁2次側の水圧データを遠隔で提供することで、市が別途実施する減圧弁の維持管理業務の高度化、省力化を図るものである。

その他、業務内容については、事前に公表した『要求水準書』の通りである。

2. 審査の経緯及び審査結果

(1) 入札参加者の受付及び審査

入札参加者の受付、入札参加者の資格の審査等については、事前に公表した『入札説明書』に記載の通り実施した。

4者からの入札参加表明があり、全ての参加者が入札説明書に記載の入札参加資格を有することを確認した。

(2) 落札者の決定

落札者の決定については、事前に公表した『落札者決定基準』に基づき事務局による基礎審査と事業者選定評価委員会による定性的評価（非価格要素審査）を実施した後、定量的評価（価格要素審査）をおこなった。事業者選定委員会の構成についても、事前に公表した『落札者決定基準』の通りである。

基礎審査にて、全ての参加者の提案内容が要求水準に達していることを確認し、事業者選定評価委員会に報告された。

定性的評価は、入札価格を開示されない状況で実施し、各委員が落札者決定基準に基づいた採点を行った後、委員長の議事進行の下、意見交換を行い委員会としての評価点を決定した。

定量的評価については、定性的評価による点数が定まったのち、入札価格を確認し、落札者決定基準に基づき価格点を算出した。

定性的評価と定量的評価の点数を合算し、既に公表済みの開札結果の通り、落札者を決定した。

なお、一連の評価を通じた事業者選定評価委員会による総評は別表の通りである。

以上

事業者選定評価委員会による総評

業務実施体制	C社に関しては、ISO等の各種国際規格の取得だけではなく、製作期間から運用期間を通じて、しっかりとした組織体制が提案されている。 参加者の一部には、運営体制等が不明瞭な印象の提案もあるなか、C社に関しては、信頼性の高い業務実施体制が示された。
技術の信頼性と機器故障時の対応	技術の信頼性については、既に大都市で本格運用した実績のあるC社が若干優位ではあるものの、各社とも必要な技術力は有しており、大きな差はない。 機器故障時の対応においては、24時間受付窓口を有するC社の提案は、他者と比べて優れており加点要素である。但し、C社の受付窓口は、本業務の担当者と直接つながるものではないため、逆に不便な面がある可能性もあるため、この部分を配慮した加点とする。
地域貢献に係る配点	定性評価における地域貢献の配点ルールでは、地元企業又は準地元企業でない限り加点が望めない。A社は準地元企業・地元企業のどちらにも当たらないが、神戸市の地元企業と積極的に連携する提案内容となっており、一定の地域貢献効果が認められる。この部分については、創意工夫の一環として加点配慮する。
落札者について	定性的評価では、落札者決定基準に基づき、選定委員の意見によって提案内容を得点化した結果、C社が最高得点となった。 各委員の間で採点傾向に大きな差異は無いことから評価の内容は適正と考えられる。 その後、開札結果に基づき算出した定量的評価においても、C社が最高得点となった。 それぞれ、独立して実施した定量的評価・定性的評価の双方でC社が最高得点であることから、落札者はC社とすることが適切である。